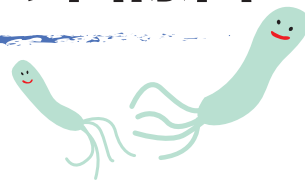


医療

病院 医院 クリニック



胃がん予防の切り札！ピロリ菌除菌



近年、減少傾向にある胃がんですが、現在も年間10万人以上が胃がんになっています。その主な原因とされているピロリ菌、その菌を取り除けば、劇的に、胃がんのリスクが低下します。

ピロリ菌とは

ピロリ菌は、1994年にWHO(世界保健機構)によって「確実な発がん因子」と認定されました。ピロリ菌に感染すると、胃の粘膜がうすくやせてしまう「萎縮・老化」が進行し、胃がんを引き起こしやすい状態をつくりだします。

ピロリ菌に感染している人と感染していない人に対して10年間調査を行ったところ、感染している人では2.9%に胃がんが発生したのに対し、感染していない人では胃がんは発生しなかったという研究報告もあります。しかも、ピロリ菌は、日本人全体の30%、60才以上で80%の人が感染しているといわれています。

これまででも、このピロリ菌を取り除けば、胃が若返り、胃がんの予防につながる事がわかっていましたが、慢性胃炎の方の除菌には3万円ほどの費用がかかり、多くの方が除菌をしないでいました。しかし、2013年2月から、胃カメラを受けて、慢性胃炎と診断されれば、ピロリ菌の除菌が、健康保険で認められるようになったのです。多くの方が除菌をすることで、今後、日本人の胃がんが激減すると予想されています。

なぜ、ピロリ菌に感染したの？

ピロリ菌の感染経路は、まだはっきりわかっていませんが、大部分は飲み水や食べ物を通じて、人の口から体内に入ると考えられています。

ピロリ菌は、ほとんどが5歳以下の幼児期に感染すると言われていています。わが国では、戦後の時代に生まれ育った団塊の世代以前の人々のピロリ感染率が高いため、上下水道が十分完備されていなかったせいではないかと考えられています。上下水道が完備され衛生環境が整った現代ではピロリ菌の感染率は著しく低下しており、予防についてあまり神経質にならなくてもよいでしょう。

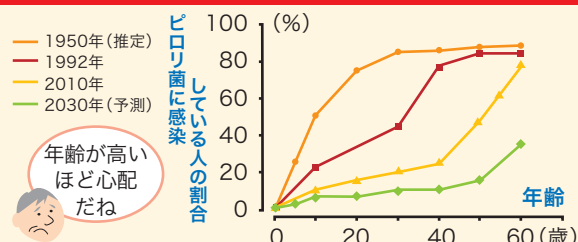
除菌の実際

慢性胃炎に対するピロリ菌の除菌には、まず胃カメラで、胃がんなどの他の病気がないかを確認します。治療は、「抗菌薬」と「胃酸の分泌を抑える薬」を7日間服用するだけです。1回目の除菌療法で、うまくいかない場合は、「抗菌薬」の種類を変えて2回目を行います。1回目の除菌療法の成功率は75%、2回目までなら成功率は95%を超えます。副作用としては、抗生物質を飲むため、軟便や味覚異常を起こすこと、除菌後は少数の方に逆流性食道炎が起こるとの報告があるので、あらかじめ医師にご相談ください。

ピロリ菌と食品

近年、ピロリ菌の抑制効果があるものとして緑茶カテキンやヨーグルトなどが報告されていますが、これらの食品では、菌の減少は確認されていますが、除菌することはできません。まずは除菌治療をお勧めします。

日本人のピロリ感染率の過去と将来予測



北海道大学大学院医学研究科 がん予防内科学講座 特任教授 浅香正博先生の研究報告

医療法人メディプラス
西田メディカルクリニック
西田 元彦

